



浅江中の集団力の根底にあるもの

浅江中に着任した教職員が一番驚くのが、子どもたちの集団行動（以後、集団考動と表記します）の素晴らしさです。この度着任した吉岡校長も同様に、この1週間あまりの中で、幾度となくそのすごさに感心していました。

～ そんな吉岡校長から…… ～

生徒会主催の対面式は、創意工夫にあふれた素晴らしいものでした。生徒会役員の企画力、表現力、全校生徒の聞く姿勢など、素晴らしい点を上げればきりが無いのですが、実は私が一番驚いたのは式が始まる前でした。それは、2、3年生が体育館に入場する場面です。普通たくさんの生徒が体育館に入場するときには、無数の足音が体育館のフロアに共鳴して、お腹に「ズンズン」と響くような音がします。しかし、300名弱の2、3年生が体育館に入場する際にほとんど足音が聞こえませんでした。さらに、整列した後、手に持っていた上靴を床の上に置く際にも、普通なら「ゴンツ」という音が体育館中に響くのですが、聞こえてくるはずの音が全くしなかったのです。この一連の所作には、驚きとともに美しさすら感じました。

また、ある日の体育の授業は1、2年生合同で行われ、2年生が、1年生に集団考動を教えるという活動が設定されていました（下写真）。2年生がお手本を示しながら、1年生が集団考動の基本を身に付けていくという授業でしたが、2年生の切れのあるお手本の演技にも美しさを感じました。どの中学校でも集団考動の指導は行いますが、集団考動から美しさを感じたのは、長い教員人生の中で初めてです。



対面式での体育館に入場する際の所作も含めて、浅江中生徒の集団での立ち居振る舞いからは**美しさ**が感じられます。その源泉には、他者への「**思いやり**」があるのだと思います。たくさんの生徒の中には、ざわざわとしたノイズが苦手な生徒がいます。音を立てないように意識することは、ノイズが苦手な仲間への「**思いやり**」です。また、切れのある集団考動で、安全に行動する基盤をつくることによって、けがや事故を未然に防ぎ、みんなが楽しく活動する時間を最大限確保することができます。これも、一緒に活動する仲間に対する「**思いやり**」です。移動した後に縦横の列をそろえる際や、上級生が下級生に集団考動を教える際にも、小さな「**思いやり**」が、そこかしこで発揮されているのだと思います。日頃の学校生活の中で身についた**美しい所作**は、他校生徒にはない**浅江中生徒の強み**だと思います。多くの中学校では、推薦入試対策の一環として、入試の直前に礼法指導を行います。浅江中に限っては必要はないかなと思いました。「**思いやり**」を基盤とした、**カッコよく、爽やかにしかも美しい浅江中生徒の所作**をこれからも大切にしていきたいと思っています。



持ち物を「揃えて置く」ことも浅江中では当たり前……。先輩が実践していることなので、すでに1年生も自然と実行し、体育館の壁際はこんな状態です!!

美しい所作の基盤にあるのは「思いやり」